

成果の説明書

(氏名) 齋川 貴嗣	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 国際連盟知的協力国際委員会の研究</p> <p>知的協力国際委員会の理念の変容について論文を執筆し、日本国際政治学会『国際政治』193号「歴史のなかの国際平和機構」に投稿した。既に査読は通過しており、2018年5月に刊行予定である。</p> <p>齋川貴嗣「知的協力から国際文化交流へ—国際連盟知的協力国際委員会における理念変容」『国際政治』193号、2018年5月刊行予定。</p> <p>② 日本における国際連盟研究の組織化</p> <p>科研費研究課題「アジア太平洋における国際連盟—新たな国際連盟史研究の構築と発信」(代表者：篠原初枝)の研究分担者およびプロジェクト・マネージャーとして、本研究課題の取りまとめを行った。2017年度はミーティングを3回開催するとともに、2018年2月にはジュネーブの国際連盟史料館で史料調査を行った。また本研究課題は、2019年度に国際会議の開催、2020年度に英文論文集の刊行を予定しており、国際会議招聘者ならびに出版社(Routledge)との交渉を行った。</p> <p>③ シリーズ『渋沢栄一と「フィランソロピー」』への寄稿</p> <p>ミネルヴァ書房から刊行されている上記シリーズの第5巻『国際交流に託した渋沢栄一の望み』(2019年3月刊行予定)の分担執筆者として研究会に参加した。2018年2月の研究会において渋沢栄一と国際連盟に関する報告を行い、「渋沢栄一の国際連盟論」(仮題)として論文執筆を進めている。</p> <p>④ 学会活動</p> <p>日本国際文化学会理事として、2017年7月に開催された第16回全国大会に参加した。また自由論題Aセッションにおいて司会を務めた。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>ラジオ高崎「ラジオゼミナール」2017年7月28日、8月4日出演。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>本年度は国際連盟知的協力国際委員会の研究について、『国際政治』に論文を投稿し、一つの成果を示したと考える。しかしながら、他方で、ユネスコ研究がやや疎かになったことは否めない。したがって、次年度はユネスコ研究において一定の成果を出すことを目標としたい。その第一段階として、2018年7月にオーストラリアのキャンベラで開催されるオーストラリア歴史学会にて1950年代日本におけるユネスコ活動の展開に関する研究報告を行なう予定である。その他、本年度の継続で国際連盟研究の組織化を推進するとともに(2018年度日本国際政治学会研究大会にて部会報告が決定)、渋沢栄一の国際連盟論に関する論文執筆を予定通り行なう。</p>	